



写真 C9：設備



写真 C10：新しい防火水槽



写真 C11：分割の様子



写真 C12：古い防火水槽



写真 C13：庇の様子



写真 C14：事務所

事例名称	事例4			
改修主旨	工場が立地した時は、工業地帯だったところも周辺の宅地化が進み(写真D16)、敷地の買い増し、増築が難しくなったため、他所への移転を考えていた。一方京都に本拠を置く大学の京都府内のキャンパスが手狭になったため、移転に適した土地・建物を探していた。求めていた条件が偶然一致し、土地建物を購入し、改修による用途変更の設計も同時に検討された。			
出展	建築の保存デザイン(学芸出版社)当該大学施設部管理図面			
所在地	京都府長岡京市			
立地の地理条件	住宅地			
改修期間				
改修主体パターン	【新オーナー】 【新設計】 【新施工】			
<b>改修前</b>		<b>改修後</b>		
所有者	金網製造会社	所有者	学園	
竣工年(年代区分)	昭和36年	竣工年(年代区分)	昭和62年	
用途	金網製造工場	用途	大学芸術学部実習室	
設計資料の有無	不明	設計資料の有無	大学施設部に保管	
規模	主体構造	鉄筋コンクリート造	主体構造	鉄筋コンクリート造
	階数	1階建て	階数	2階建て
	敷地面積	42593.81㎡	敷地面積	42593.81㎡
	延床面積	7087㎡	延床面積	12096.95㎡
	建築面積	7087㎡	建築面積	7087㎡
空間・構造部材	X	鉄筋コンクリート打設による内部の間仕切りと、2階部の増設を行った(写真D19-21)。基礎は既存躯体とはべつに打設してあり(図D3)、既存躯体に対しての重量依存は無い。		
設備	Z	設備用基礎が極めて頑強だったので、内部にトイレなどの下水配管を行うコストがかかりすぎることがわかったので、トイレや水周りは建物外部に新設して配した(写真D3)。元々天井が高くないところに2階を設けたため、設備用の天袋スペースなどをとることができなかったため、冷暖房は、一般の冷房機器を多数配することで対応した。照明等も標準的な吊り下げ型であり、配線も躯体の表に配している(写真D11)。		
意匠部材 特に外装	Y	「コンクリートシェルの屋根にある連続蒲鉾型の屋根の意匠を生かす。」と設計意図にあり、建物の形態は保存されているが、改修時に部分的に表面モルタルをはつり、タイルを張っている部分が見られるなど、特に旧設計の意匠部材を用いるという意図はない。		
備考	金網製造のための機械設備は精度が求められるため、頑強な基礎を必要とする。機械用基礎の位置が改修設計時に問題となった。内部は元々が高くないところに2層設けているため、天井は手が届くほど低い。また、蒲鉾屋根の形を中から見ることができ(写真D9)、廊下もアップダウンをつけて屋根の谷部を避けている(写真D10)。敷地には他にも既存建物を改修した部分として実習室が2棟と食堂棟と守衛所(写真D13-16)がある。			





写真 D1：外壁



写真 D2：外壁



写真 D3：トイレ



写真 D4：回廊



写真 D5：廊下



写真 D6：図書館





写真 D7：階段部見上げ



写真 D8：階段部



写真 D9：内部



写真 D10：廊下



写真 D11・配線



写真 D12：実習室 C 棟内部





写真 D13：実習室 B 棟



写真 D14：実習室 C 棟



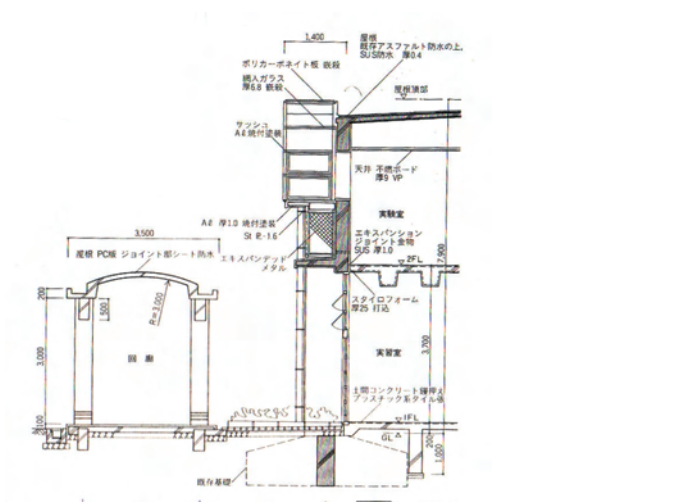
写真 D15：守衛所



写真 D16：食堂棟



写真 D16：隣地との間隔



回廊、妻壁断面<sup>ア</sup>

図 D3：断面





写真・図 D17：回廊部 PC 屋根



写真 D18：立面解体

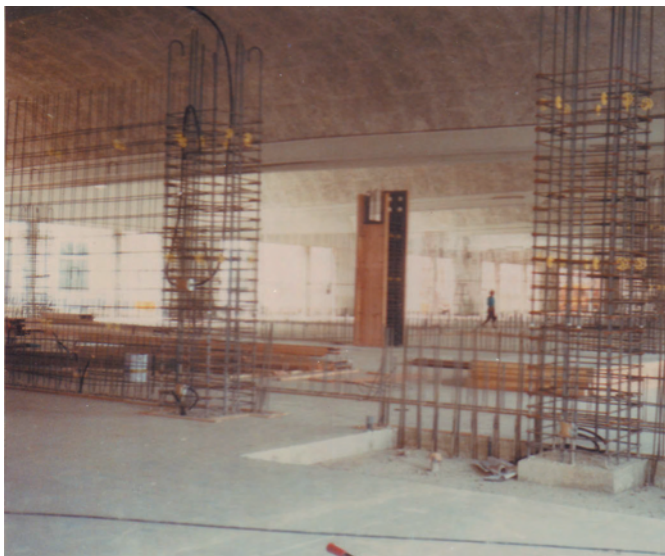


写真 D19：内部配筋



写真 D20：内部型枠



写真 D21：内部 PC 間仕切り打設

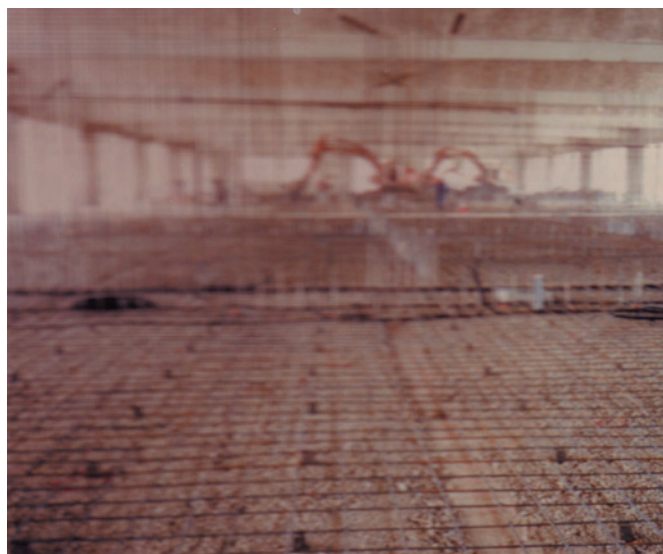


写真 D21：内部配筋





写真 D23：設備撤去後ピットの様子



写真 D24：解体前外観



写真 D25：内部解体後



写真 D26：食堂棟解体

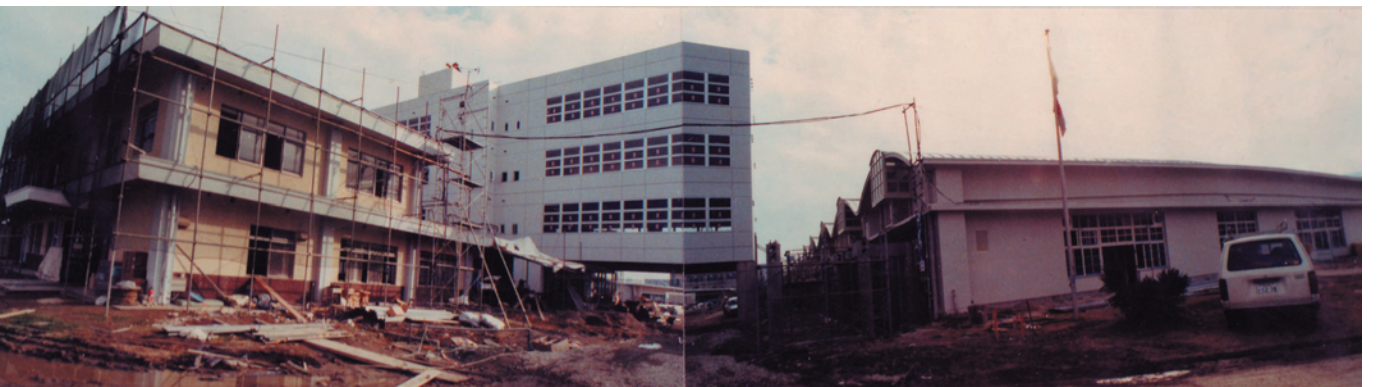


写真 D27：図書館改修の様子



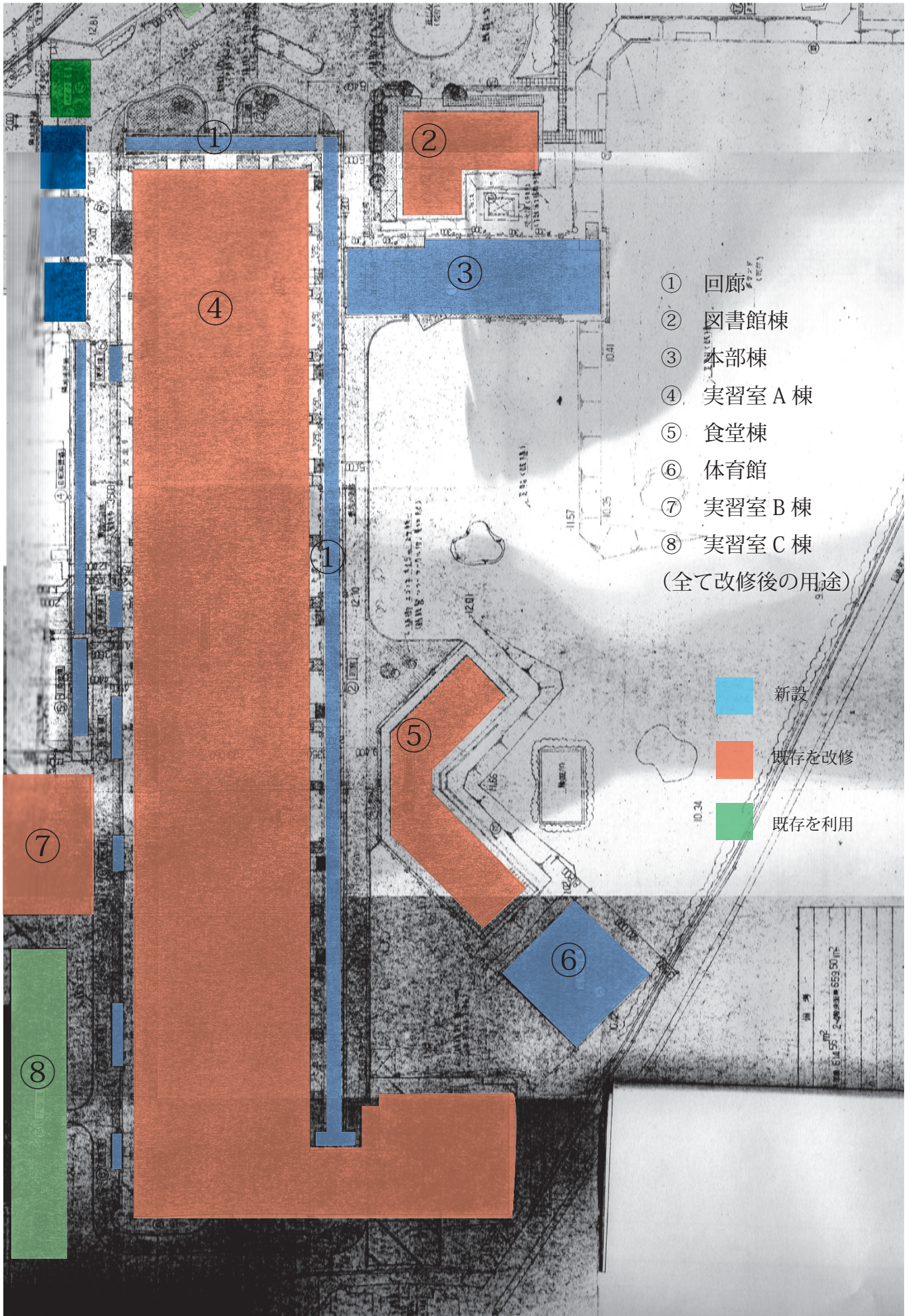
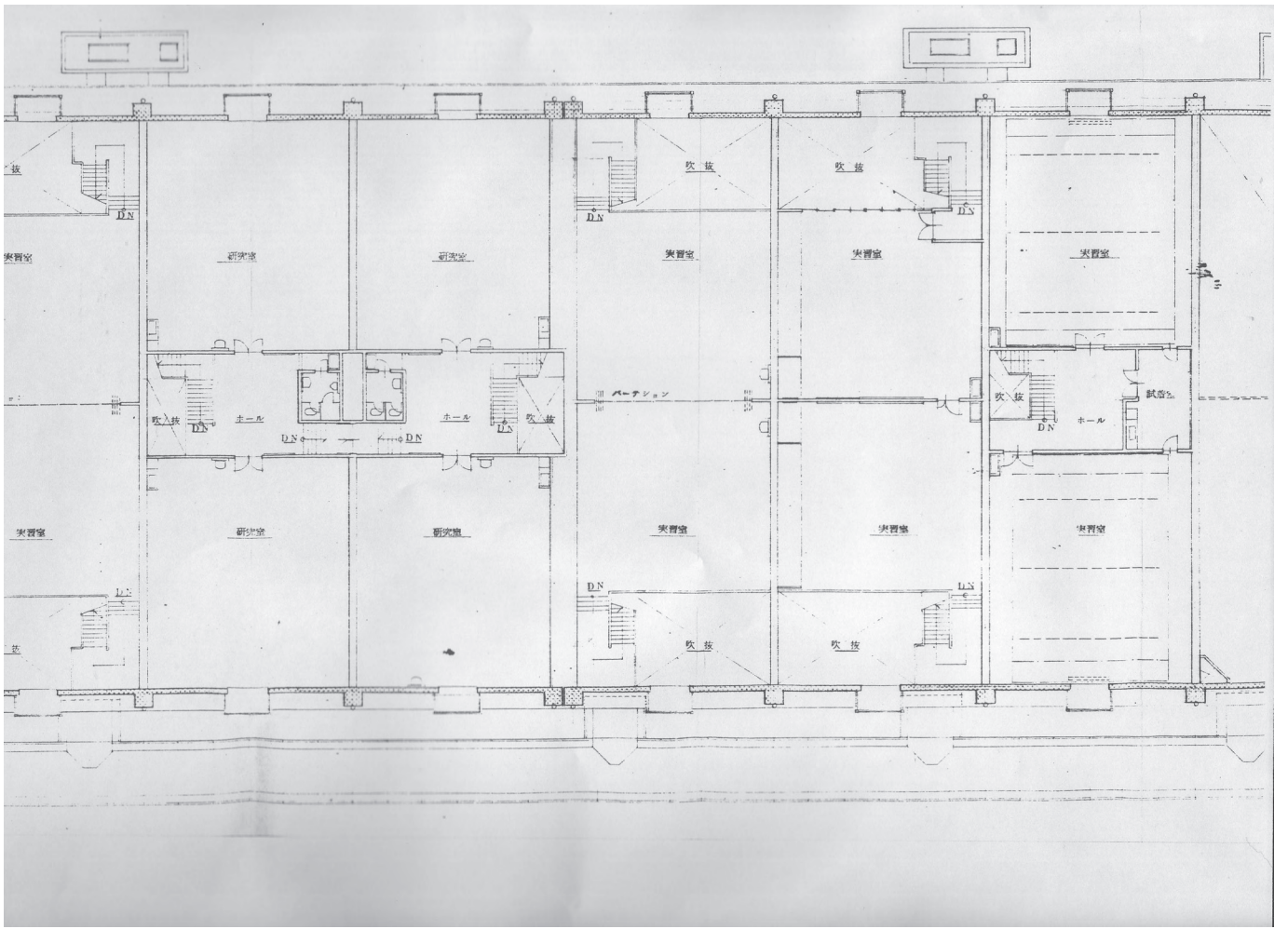


図 D4：配置図





事例4

図 D 5 : 2階平面図

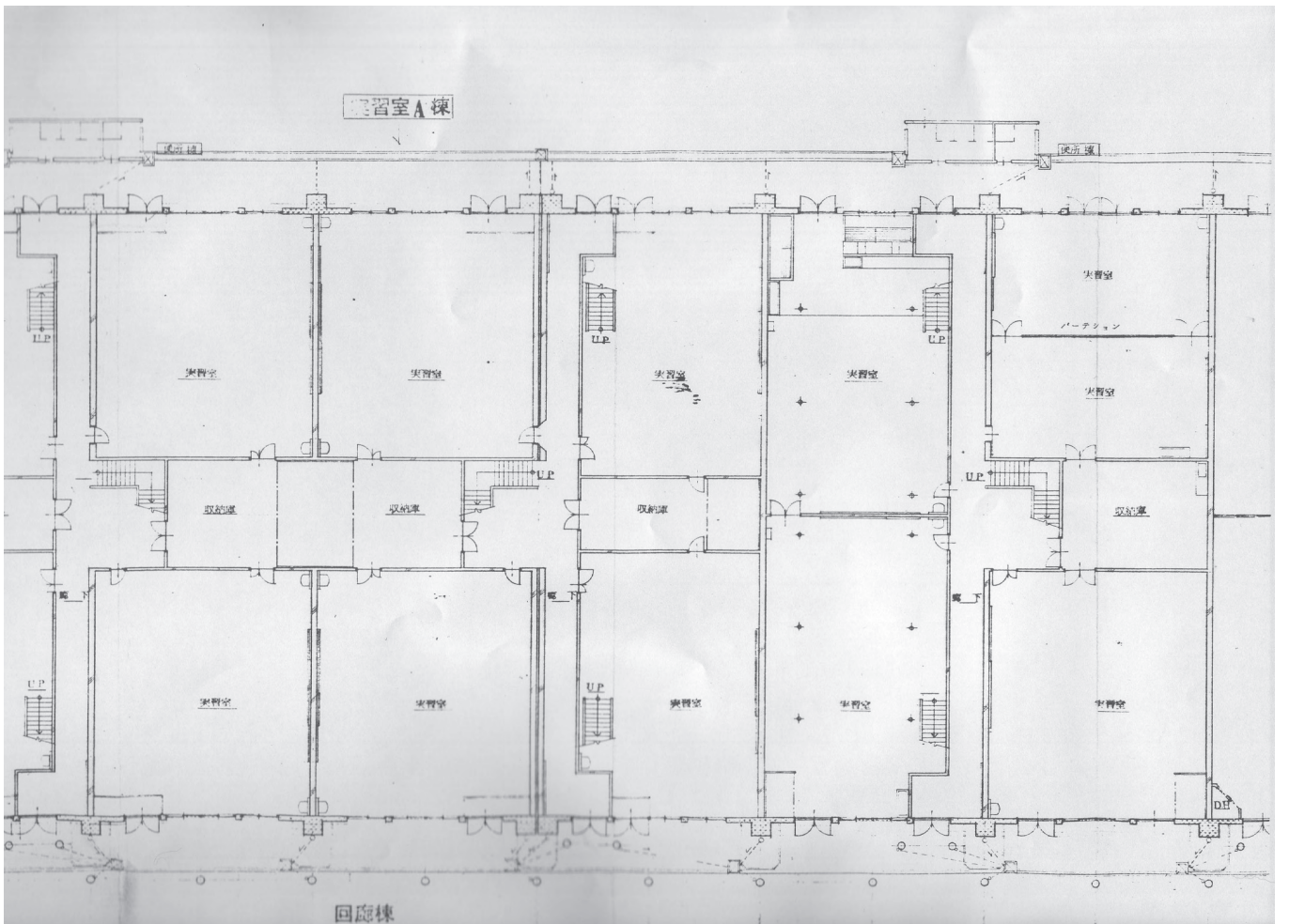


図 D 6 : 1階平面図



事例名称	事例5
改修主旨	自動織機メーカーの工場を改修。工場の閉鎖後、暫くは廃墟になっていた。操業当時の建物や機械などを遺産として活用しようと言う同社の新たな方針に基づき改修し、同社の記念館に用途変更した。既存の工場群の意匠を生かし、現存する煉瓦壁は全て残すようにした。
出展	歴史ある建物の使い方（学芸出版社） <a href="http://www.tcmi.org">http://www.tcmi.org</a>

所在地	愛知県名古屋市
立地の地理条件	市街地
改修期間	1992年9月から1994年6月
改修主体パターン	【オーナー】 【新設計+施工】

改修前		改修後	
所有者	自動織機会社	所有者	前所有者を含む企業グループ
竣工年(年代区分)	1911年	竣工年(年代区分)	1994年
用途		用途	
設計資料の有無	自動織機生産会社	設計資料の有無	
規模	主体構造	木造	既存+鉄骨造
	階数	平屋建て	既存+2階建て
	敷地面積		
	延床面積	20091㎡	26,846㎡
	建築面積		

空間・構造部材	X	<p>基本的には壁面保存であるが、そのために新築部分を大幅に増築している。旧工場部の建て屋のうち一部はそのまま展示スペースにしてあり、耐震改修も同時に行われている。</p> <p>別棟には、他所の敷地から解体移築してきた工場の建屋もあり、部材は極力残しながら、改修している。</p>
設備	Y	<p>増築・改装に伴い、旧設備を撤去、新たに照明・冷暖房・給排水設備を追加している。</p>
意匠部材 特に外装	X	<p>旧建物 の外観と同時に、外装材のレンガ造の意匠を尊重し、材も使えるところは極力そのまま用いるようにしている。使えない部材についてもインシュレーションブロックなどに転用している。</p> <p>外装材 の補修材も極力近い色味で張替えを行っている</p>

備考	<p>設立当初の建築コンセプトである「産業考古学、建築史両面からの評価の高い構築物を産業遺産として保存しながら社会に貢献する文化施設」を念頭に起き、既存建屋との調和を図りつつ操業当時の歴史的建物を追加移築することにより「産業遺産保存」「展示内容」両面の充実を図り、より魅力ある施設作りを目指した。</p>
----	--